

⑫ 公開特許公報(A) 平3-61181

⑤ Int.Cl.⁵B 62 D 25/12
25/08

識別記号

B
H

庁内整理番号

7816-3D
7816-3D

④ 公開 平成3年(1991)3月15日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑥ 発明の名称 車両のフード構造

② 特 願 平1-198310

② 出 願 平1(1989)7月31日

⑦ 発 明 者 梅 下 隆 一 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
 ⑦ 発 明 者 倉 本 英 介 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
 ⑦ 発 明 者 横 山 繁 治 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
 ⑧ 出 願 人 マ ツ ダ 株 式 会 社 広島県安芸郡府中町新地3番1号
 ⑧ 代 理 人 弁理士 柳田 征史 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

車両のフード構造

2. 特許請求の範囲

樹脂製フードと該樹脂製フードを車体に対して
 回動可能に支持するヒンジとを備え、該ヒンジの
 車体側ヒンジブラケットが前記車体のカウルアッ
 パパネル上面に上方から取付けられていることを
 特徴とする車両のフード構造。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、樹脂製フードが取付けられてなる車
 両のフード構造に関するものである。

(従来技術)

近年、車体の軽量化の要請から実開昭60-1652
 67号公報に示されているように鉄板製のフードに
 かわって樹脂製フードを採用したものが普及して
 いる。

従来、鉄板製のフードを有する車体においては、
 製造工程上カウルサイド部等にフードを取付けた
 後、このフード取付部分の側部にフェンダを取付
 け、フェンダとフードとの位置関係を適正に保つ
 ためにフェンダの位置を車幅方向に調整し、これ
 らの工程の後ボディおよびフードを一体的に塗装
 する方法がとられていた。

(発明が解決しようとする課題)

しかし、樹脂製フードを配設した車体において
 は、フードをボディに取付けた後にボディに塗装
 を施すことは塗装方法の都合上不可能である。こ

のためフードより先にフェンダを取付けて塗装した後、樹脂製フードを組付ける取付け方法を取らざるを得ない。

このようにフードをボディの塗装工程の後に取付ける方法では、フェンダと樹脂製フードとの位置調整をフェンダ取付時にフェンダ側で行うことは不可能であり、樹脂製フード取付け時に車幅方向にずらして取付位置を調整する必要がある、また、フードの取付けスペース的にも合理的な取付構造をとる必要がある。

本発明は前述したような要望に応え、簡単かつ合理的に樹脂製フードを塗装後のボディに取付けることが可能な車両のフード構造の提供を目的とする。

(課題を解決するための手段)

本発明の車両のフード構造は、樹脂製フードと該樹脂製フードを車体に対して回動可能に支持するヒンジとを備え、該ヒンジの車体側ヒンジブラケットが前記車体のカウルアップパネル上面に上方から取付けられていることを特徴とする。

— 3 —

パネルが結合されてエンジンルーム（図示せず）の後端が形成されており、樹脂製フード2がヒンジ3を介して回動可能に取付けられている。このヒンジ3は、車幅方向に延長された形状でカウルアップパネル8a上にナット締めされ車体に固定された車体側ヒンジブラケット4と、この車体側ヒンジブラケット4の車幅方向外側に支点6を介して後端5aが取付けられ、車体前後方向に延長されてなるフード側ヒンジブラケット5とからなる。このフード側ヒンジブラケット5は車体前後方向に弧を描いて回動可能に支持されており、このフード側ヒンジブラケット5の上面にフード2の下面が孔部5bを介してナット締めされることにより、カウルアップパネル8a上にフード2が回動可能に支持されるものである。

このフード2の車体ボディへの組付け時には、あらかじめフェンダパネル9を取付け、塗装を施した後、フード2を取付ける方法がとられる。すなわち、フード側ヒンジブラケット5と、車体側ヒンジブラケット4とが一体的に連結されたヒン

(実施例)

以下、図面を用いて本発明の実施例を説明する。

第1図に示す車体1の前方側の樹脂製フード2は、一般的なフード構造と略同様にエンジンルームを覆って配設され、車体後方側縁部2aで車体1のボディに取付けられており、この取付側を中心としてエンジンルーム開放方向に回動可能にヒンジ3により支持されている。

第2図、第2図をⅢ-Ⅲ線に沿って切断した方向よりみた第3図、第2図をⅣ-Ⅳ線に沿って切断した方向よりみた第4図に示すように、フード2を支持するヒンジ3は、車体の固定される車体側ヒンジブラケット4とフード2の下面に固定されるフード側ヒンジブラケット5とが支点6を中心に回動可能に連結されてなる。すなわち、フード2の取付け部分であるフロントガラス下端7配設部分の車体ボディの構造はカウルアップパネル8a、カウルフロントパネル8b、カウルサイドアップパインナ8c、ダッシュアップパネル8d、カウルサイドアップアウト8e、カウルサイドパネル8fの各

— 4 —

ジ3のフード側ヒンジブラケット5が、後部の複数ヶ所にナット締めされてなるフード2をエンジンルームを覆う閉鎖位置の状態で位置決めし、カウルアップパネル8a配設部分のフロントガラス7との車幅方向のスペースを利用して車体側ヒンジブラケット4をカウルアップパネル8a上にナット11により固定する。

なお前述したフード側ヒンジブラケット5の孔部5aにボルト係合されるフード側の孔部を車幅方向に楕円形をなす長孔形状としておくことでブラケットのフード2の支持位置を車幅方向の位置調整をスムーズに行うことができる。

また本実施例のようにカウルアップパネル上面にヒンジ3を取付けることにより、前記ヒンジ3の配設部分の外傾を向上させるためにガーニッシュ10を2点鎖線で示す位置に配設しヒンジ3配設部分を被覆することが可能である。

また第5図に示すヒンジ20のようにフード側ヒンジブラケット22と車体側ヒンジブラケット23が共に車体前後方向に延長されて形成され、回動点

— 5 —

— 6 —

21を中心にヒンジ回転する部材において、車体側ヒンジブラケット23の車体取付位置を後方にずらしフード3の外縁より後方に車体側ヒンジブラケット23のボルト係合孔24bを設け、この係合孔24bを、フードを閉鎖位置の状態では位置決めした後ボルト締めし、さらにこの係合孔24bより前方の係合孔24aをフード開放状態でボルト締めするようにしても良い。

(発明の効果)

本発明のフード構造は樹脂製フードを回転可能に支持する車体側ヒンジブラケットをカウルアップパネルに上方から取付けてなるため、カウルアップパネルとフードとの隙間を効果的に利用して、フードの取付けを行うことができる。すなわち樹脂製フードはフェンダ取付け後ボディの塗装工程より後に取付けを行う必要があるが、本発明の構造においてはフェンダが取付けられた後カウルアップパネル上にフードを取付けることがスペース的に可能であり、フード組付け時にフード閉鎖状態のまま取付け部においてフードの位置調整を行

うことも可能であり、簡略な方法で効果的な取付けを行うことができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は車両のフード構造の一例を示す斜視図、第2図は本発明のフード構造の一実施例の要部を示す斜視図、

第3図は第2図をIII-III線に沿って切断した方向からみた断面図、

第4図は第2図をIV-IV線に沿って切断した方向からみた断面図、

第5図は異なる実施例を示す斜視図である。

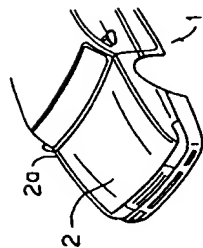
2…樹脂製フード

3…ヒンジ

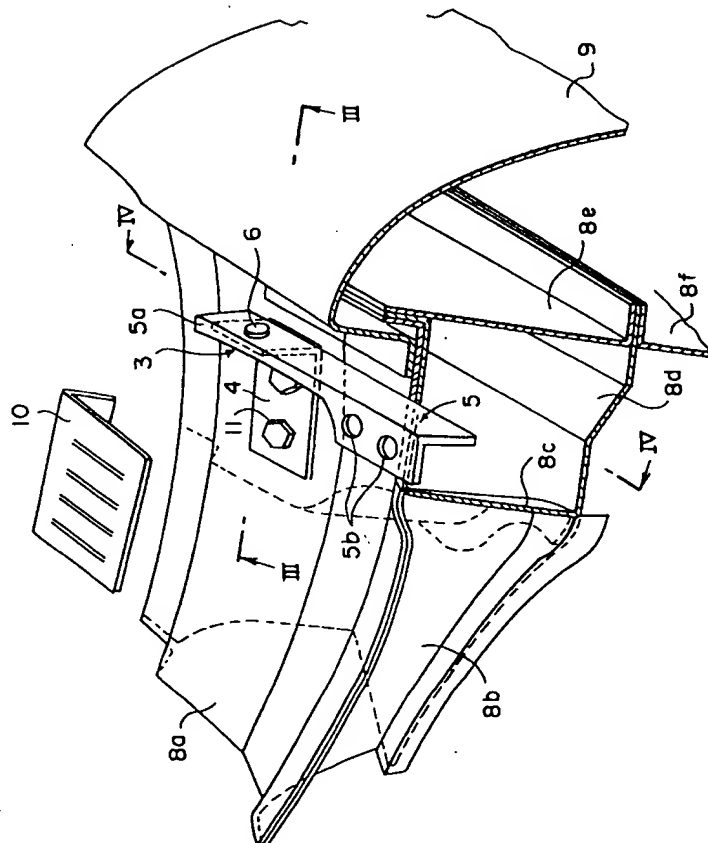
4…車体側ヒンジブラケット

8a…カウルアップパネル

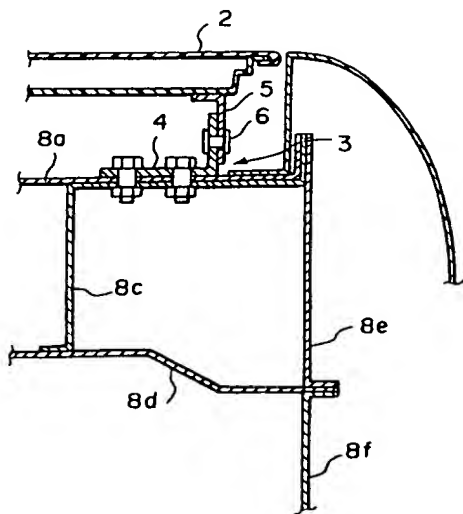
第1図



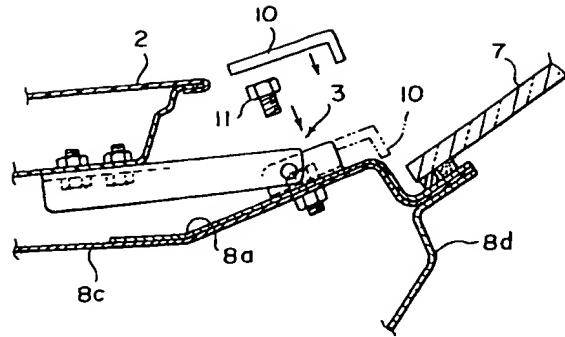
第2図



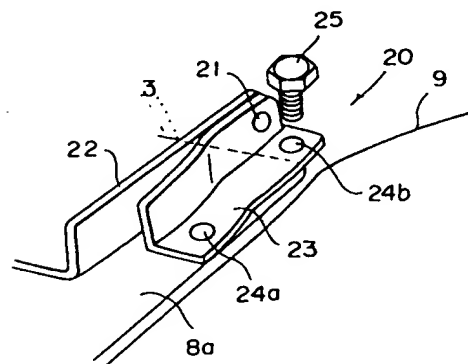
第 3 図



第 4 図



第 5 図



CLIPPEDIMAGE= JP403061181A

PAT-NO: JP403061181A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03061181 A

TITLE: HOOD STRUCTURE FOR VEHICLE

PUBN-DATE: March 15, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

UMESHITA, RIYUUICHI

KURAMOTO, EISUKE

YOKOYAMA, SHIGEJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

MAZDA MOTOR CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP01198310

APPL-DATE: July 31, 1989

INT-CL (IPC): B62D025/12;B62D025/08

US-CL-CURRENT: 180/69.21

ABSTRACT:

PURPOSE: To simplify the fitting by providing a hinge on a resin-made hood, and fitting a body side hinge bracket of the hinge on the upper surface of a cowl upper panel from an upper side.

CONSTITUTION: A hinge 3 having a body side hinge bracket 4 and a hood side hinge bracket 5 is fitted to a hood 2 with the hood side hinge bracket 5. On the other hand, the body side hinge bracket 4 is fitted to the upper surface of a cowl upper panel 8a from an upper side. This enables the hood 2 to be pivotally fitted with a supporting point 6 as the center.

This constitution
facilitates the fitting.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio